

## 成果の説明書

(氏名) 関根雅則	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p><b>【研究面】</b></p> <p>昨年度に続き、競争戦略における「スタック・イン・ザ・ミドル」と「バリュー・イノベーション」の関係について研究した。特に、M.E.ポーターが提示した概念である「生産性のフロンティア」が、バリュー・イノベーションを完全に否定するものなのか、それとも、解釈次第でバリュー・イノベーションを肯定するものなのかについて考察した。考察の結果は後者であった。つまり以下のことが解明された。①生産性のフロンティア上に存在すれば、その両極（完全なコスト・リーダーシップもしくは完全な差別化）でなくても競争優位は確立できる。②「業務効果」を向上させることにより、生産性のフロンティアを「突破」することができる。③既存の競争を超越したところに「ブルー・オーシャン」が確立される。</p> <p>以上の事実を前提として、スタック・イン・ザ・ミドルとバリュー・イノベーションの関係に関わる自分自身の見解を主張するために論文を執筆し投稿した。同論文は、「競争戦略における「スタック・イン・ザ・ミドル」と「バリュー・イノベーション」」というタイトルで、『高崎経済大学論集』、第64巻 第3号、2022年に掲載された。</p> <p><b>【教育面】</b></p> <p>(1) 学部講義</p> <p>一昨年前まで、学部の講義は、板書したものをノートにとってもらう形式であった。しかし、今年度からは、対面を原則としつつも遠隔で講義を受講する学生がいるということで、パワーポイントを用いる形式に変更した。自身としては「手で書くことによって覚える」ことが重要であると考えているので、パワーポイントを使用しつつも、学生が手書きするよう講義を工夫した。</p> <p>(2) 演習</p> <p>①基礎演習：学生が、「戦略論」等の専門に偏らず、幅広い経営学の知識を得られるように工夫した。</p> <p>②演習Ⅰ：いわゆる教科書だけでなく、ビジネス専門誌を多用することにより、学生が実存企業の経営戦略を理解できるよう工夫した。</p> <p>③演習Ⅱ：学生が、質の高い卒業論文を作成できるよう、特に、偏った見解に陥ることがないように多様なアドバイスを与えた。</p> <p>(3) 大学院</p> <p>①経営戦略研究：経営戦略の基本概念を極力緻密に教授した。</p> <p>②経営戦略研究演習：「オープン・イノベーション」に関わる多様な知識の習得を図った。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p><b>【学内での活動】</b></p> <p>人事委員長を務めた。</p> <p><b>【学外での活動】</b></p> <p>①JA 栃木中央会からの依頼により、「職員資格認証研修会（特級）」において、「経営戦略論」の講義を行った。</p> <p>②JA 栃木中央会からの依頼により、「中核人材育成研修会」において、「経営戦略（基礎理論）」というテーマで講義した。</p> <p>③JA 群馬中央会からの依頼により、「戦略型中核人材育成研修会」において、「経営戦略の基礎理論」というテーマで講義した。</p>	

### 3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、競争戦略の「スタック・イン・ザ・ミドル」に関わる研究をさらに深化させたい。「バリュー・イノベーション」と関係では、一定の見解を得たが、また別の側面からのアプローチが可能であると考えている。

教育面では、特に学部の高年次生が、より多くの専門的文献に触れることができるよう促していきたい。

その他については、今年度も、JA 栃木中央会および JA 群馬中央会から「経営戦略」に関わる講義を依頼されているのでしっかり対応したい。